中学校　国語　　古文⑤　～歴史的仮名遣い④～　（解答）

（　　　）年（　　　）組（　　　）番　名前（　　　　　　　　　　　　　　）

一 次のー線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべて

　ひらがなで書きなさい。（１０点×１０問）

　これも仁和寺の法師、童の法師に①ならむとする名殘とて、

各遊ぶことありけるに、②酔ひて興に入るあまり、傍なる足鼎をとりて頭にかづきたれば、③つまるやうにするを、鼻をおしひらめて、顔をさし入れて舞ひ出でたるに、滿座興に入ること限りなし。

点

しばし奏でて後、④抜かむとするに、大かた拔かれず。酒宴ことさめて、⑤いかゞはせむと惑ひけり。とかくすれば、首の⑥まはり缺けて血垂り、たゞ腫れに腫れみちて、息もつまりければ、うち割らむとすれど、たやすく割れず、響きて堪へがたかりければ、叶はで、すべき樣なくて、三足なる角の上に、帷子をうちかけて、手をひき杖をつかせて、京なる醫師（くすし）の許、率（い）て行きけるに、道すがら人の怪しみ見る事限りなし。醫師の許（もと）にさし入りて、むかひ⑦居たりけむ有樣、さこそ異樣なりけめ。物をいふも、くゞもり聲に響きて聞えず。「かゝる事は書にも見えず、傳へたる教へもなし」といへば、また仁和寺へ帰りて、親しきもの、老いたる母など、枕上により居て泣き悲しめども、聞くらむとも覺えず。

かゝる程に、或者の⑧いふやう、「⑨たとひ耳鼻こそ切れ失すとも、命ばかりはなどか生きざらむ、たゞ力をたてて引き給へ」とて、藁の蒂（しべ）をまはりにさし入れて、金を隔てて、首もちぎるばかり引きたるに、耳鼻缺（か）けうげながら、拔けにけり。からき命⑩まうけて、久しく病み居たりけり。

（「徒然草」による）

①　　②

ならん

よいて

③　　④

つまるように

ぬかん

⑤　　⑥

いかがはせん

まわり

⑦　　⑧

いたりけん

いうよう

⑨　　⑩

見たことがない文章でも、歴史的仮名遣いの読み方は一緒だよ。

大まかな内容を捉えられるようにしよう！

たとい

もうけて